

## 再評価結果（平成29年度事業継続箇所）

担当課：道路局国道・防災課  
担当課長名：川崎 茂信

<b>事業名</b>	一般国道58号 読谷道路		<b>事業区分</b>	一般国道	<b>事業主体</b>	内閣府 沖縄総合事務局
<b>起終点</b>	自： <small>おきなわけんよみたんそんおやし</small> 沖縄県読谷村親志 至： <small>おきなわけんよみたんそんふるげん</small> 沖縄県読谷村古堅			<b>延長</b>	6.0km	
<b>事業概要</b>						
一般国道58号は、沖縄本島西海岸を南北に走る交通の大動脈であり、沖縄本島中南部の人口集中地域や県と那覇市と、沖縄本島北部の観光・リゾート地域及び農山村地域を結ぶ主要幹線道路である。読谷道路は沖縄西海岸道路の一翼を担い、本島北部と中南部を結ぶ主要幹線道路となり、平行する国道58号読谷村、嘉手納町区間の国道58号の交通混雑の緩和はもとより、地域の産業、観光及び地域振興プロジェクトを支援する道路として、平成13年度に事業化された。						
H13年度事業化		H-都市計画決定		H13年度用地着手		H13年度工事着手
<b>全体事業費</b>		620億円		<b>事業進捗率</b>		約28%
<b>計画交通量</b>		27,600台/日				
<b>費用対効果分析結果</b>		<b>B/C</b>		<b>総費用</b>		<b>総便益</b>
		<small>(事業全体)</small> 3.2		<small>(残事業)/(事業全体)</small>		<small>(残事業)/(事業全体)</small>
		<small>(残事業)</small> 3.6		340/569億円		1,221/1,801億円
				事業費：320/536億円		走行時間短縮便益：1,045/1,519億円
				維持管理費：20/33億円		走行経費減少便益：121/205億円
						交通事故減少便益：54/78億円
<b>感度分析の結果</b>						
<small>(事業全体)</small> 交通量変動 B/C=3.0~3.3 (交通量±10%) <small>(残事業)</small> B/C=3.4~3.8 (交通量±10%)						
事業費変動 B/C=3.0~3.4 (事業費±10%) B/C=3.3~4.0 (事業費±10%)						
事業期間変動 B/C=3.0~3.3 (事業期間±20%) B/C=3.4~3.8 (事業期間±20%)						
<b>事業の効果等</b>						
①円滑なモビリティの確保						
・損失時間の削減が見込まれる。						
・現道の路線バスの利便性向上が期待される。						
②物流効率化の支援						
・重要港湾（那覇港）へのアクセス向上が見込まれる。						
③都市の再生						
・大木地区土地区画整理事業、読谷補助飛行場跡地利用などの計画との連携が期待される。						
④個性ある地域の形成						
・座喜味城址から近郊の観光拠点である北谷町（アメリカンレゾ）などへのアクセス向上が見込まれる。						
⑤安全で安心できる暮らしの確保						
・読谷村役場から第3次医療施設（県立中部病院）へのアクセス向上が見込まれる。						
⑥地球環境の保全						
・CO2排出量の削減が見込まれる。						
⑦生活環境の改善・保全						
・NOx排出量の削減が見込まれる。						
・SPM排出量の削減が見込まれる。						
<b>関係する地方公共団体等の意見</b>						
読谷道路は、ハシゴ道路ネットワークを形成する主要幹線道路であり、国道58号の読谷村から嘉手納町区間において、交通混雑の緩和や地域開発プロジェクト支援に大きく寄与する重要な道路と認識している。						
一部区間の暫定供用により、現道区間の交通量の減少等、整備効果が発現されているものの、依然として、渋滞箇所が残っていることなどから、全線において、早期の暫定供用が必要である。						
このため、対応方針（原案）のとおり事業継続に同意する。						
<b>事業評価監視委員会の意見</b>						
対応方針（原案）に対して審議を行った結果、「事業継続」で了承された。						

事業採択時より再評価実施時までの周辺環境変化等

- ・ 国道58号現道の交通量は設計基準交通量を超過している。
- ・ 平成18年に読谷補助飛行場が返還されており、その中心を通過する読谷道路を中心とした基盤整備、土地区画整理事業が進行中（計画中）。
- ・ 読谷村の人口、観光入り込み客数は増加傾向である。

事業の進捗状況、残事業の内容等

- ・ 平成13年度に事業化、用地進捗率90%、事業進捗率28%（平成28年3月末時点）
- ・ 平成15年度：大木～古堅間 延長1.3km（2/4）部分開通
- ・ 平成25年度：座喜味～喜名間 延長1.5km（2/4）部分開通

事業の進捗が順調でない理由、今後の事業の見通し等

- ・ 現在大きな課題は発生していない。
- ・ 早期の全線暫定2車線開通に向けて、事業中区間の調査設計、用地買収、工事の推進を図る。

施設の構造や工法の変更等

- ・ 技術の進展に伴う新技術・新工法の採用など、コスト縮減に努めながら事業を推進。

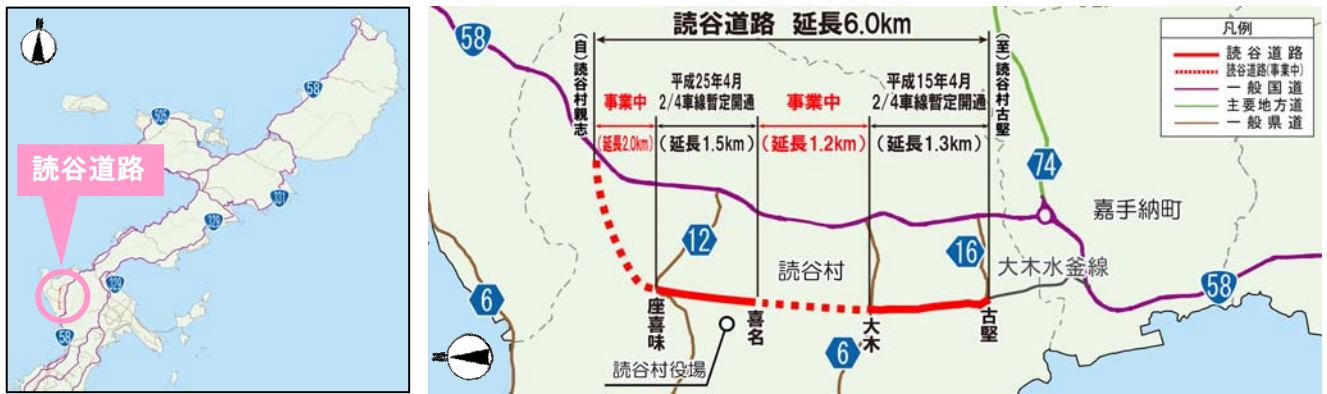
対応方針（原案）

事業継続

対応方針決定の理由

以上の状況を勘案すれば、事業の必要性、重要性は変わらないと考えられる。

事業概要図



※ 総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したもの。

※ 総費用及び総便益の値は、表示桁数の関係で内訳の合計と一致しないことがある。